

② ムラからクニへ
〜古代までの日本1〜



田んぼも…
家も人も…



あれ…
なんか
いつもの村と
違う…

外だ



機械もないし

服装や道具が
全然違う…

ほら

え？
トラちゃん、
もしかして
わたしたち
タイムスリップ
しちゃったかも



☆
ここには湧水が
あるから、稲作をする
集落(ムラ)が
できたんだ

誰？

ムササビ
くん！

水がないと作物は
育たないからね



たしかに
言われてみれば

豆知識

大昔の田んぼの遺跡には、土の中に「プラントオパール」という稲に含まれるケイ酸塩の結晶が残っています。「植物の宝石」ともいわれるプラントオパールを調べることによって、稲作伝来の時期、当時の土壌や植生、気候などを知ることができます。

稲作の始まり

縄文の終わりごろ中国や朝鮮半島などから渡来した人々が稲を日本に伝えました。人々は湧水があり洪水が起こりにくい土地などに小さな村をつかって定住しました。

米は食べやすく収穫量が多いことから、稲作は発展していきました。

弥生中期には青森県まで稲作が伝わった痕跡こんせきが残っています。



たれやばい せき
垂柳遺跡

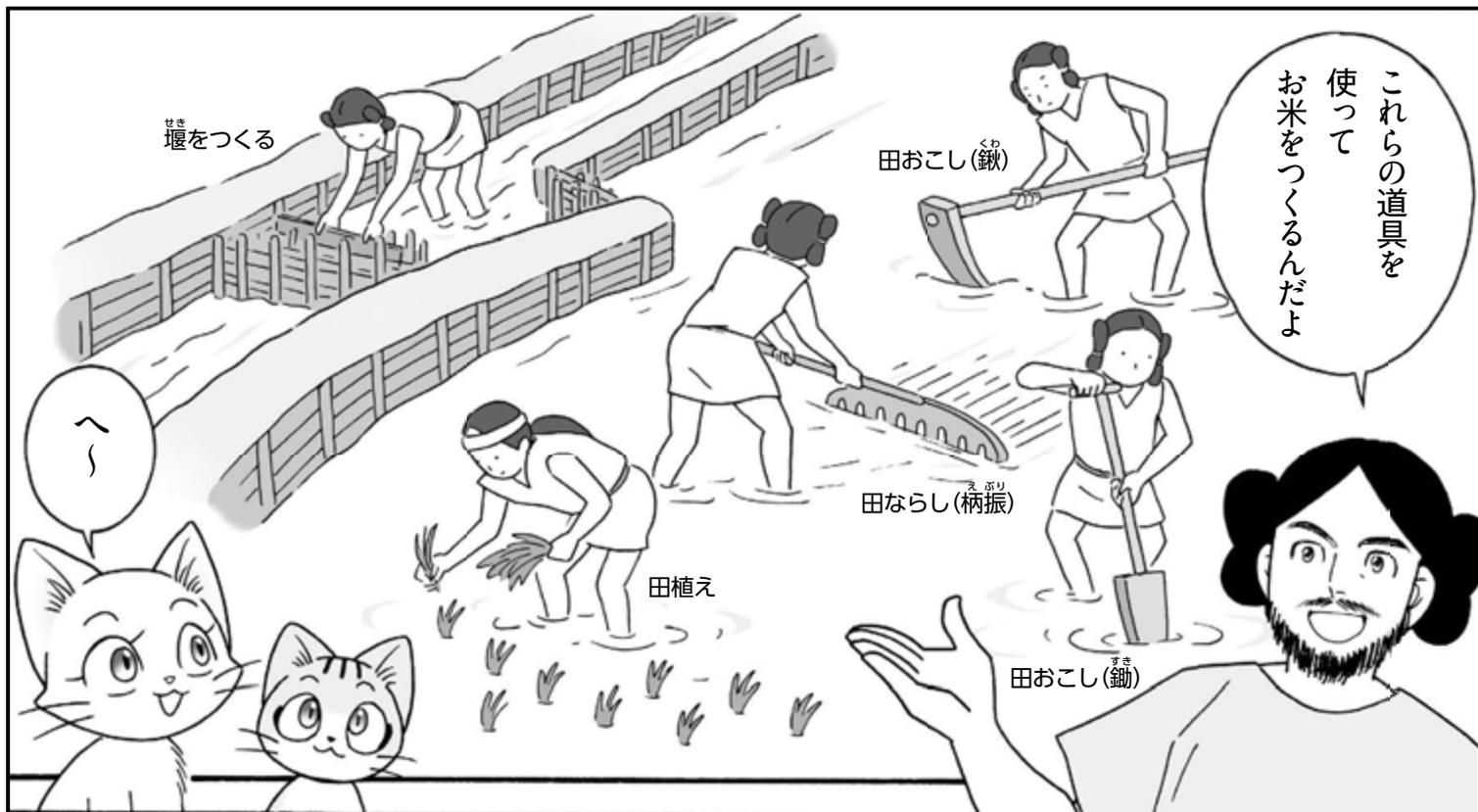
(青森県田舎館村)



たれやばい せき
垂柳遺跡に残された足跡

(青森県田舎館村)





豆知識

弥生期の水田の様子を伝える静岡県静岡市の登呂遺跡(とろいせき)には、水田の中央部に用水と排水を調節できる水路が設けられ、人々が土地を開発し、水を手に入れる水路の工事を行っていたことが分かります。